

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標の達成状況	【指標①】 外買取扱貨物量	最終目標値	283万トン	目標値と実績値 に差が出た要因	一部事業が未実施となったことや、世界的な金融危機、主要貿易国(中国・韓国)の経済成長鈍化の影響により目標値は達成できなかったものの、計画当初(170万トン)に比べ外買取扱貨物量は大幅に増加しており、本計画の事業実施により国際物流拠点の形成に資することができた。		
		最終実績値	253万トン				
	【指標③】 長寿命化計画の策定率	最終目標値	100%	目標値と実績値 に差が出た要因		-	
		最終実績値	100.0%				
	【指標④】 下関港国際ターミナルを利用する乗降者数	最終目標値	25万人	目標値と実績値 に差が出た要因			東日本大震災、外交関係の冷え込み、特に平成26年の韓国フェリー転覆事故の影響により、目標年次の乗降者数は大きく落ち込んだため、目標値を達成できなかったものの、平成27年の乗降者数は19万人となっており、本計画の事業実施により、交流人口の増加に一定の効果をあげることができた。
		最終実績値	13万人				

II 定量的指標に関連する 交付金対象事業の効果の発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・臨港道路改良整備事業により道路構成や荷重強度が改善され、大型車両の交通機能が向上し、下関港の利便性の向上につながった。また、岸壁改良整備事業による防舷材の改修により係船機能が向上し、下関港の利便性の向上につながった。 このほか、長寿命化計画策定事業により計画的な施設の維持管理を行い長期的な下関港の利便性の促進に資するとともに、緑地整備により荷役作業に影響を及ぼす風対策を講じたこと、下関港活性化事業で利用者や有識者の意見を聴いて下関港の課題の改善策を検討し、また、保安施設整備により外貨貨物の取扱いに必要な設備を整えることで、下関港の利便性の向上につながった。 ・下関港長寿命化計画策定により施設の維持管理計画が策定されたことにより、老朽化した港湾施設の計画的かつ効率的な機能の維持が可能となり、ライフサイクルコストの縮減や施設機能の安定的な確保につながった。 ・臨港道路改良整備による国際ターミナル周辺道路のバリアフリー化及び安全対策施設の整備による国際ターミナル内のバリアフリー化によりターミナル利用者の利便性の向上につながった。 また、下関港活性化事業で利用者や有識者の意見を聴いて課題の改善策を検討するとともに、保安施設整備により国際旅客の入出国に必要な施設を整えることで、利用者の利便性促進につながった。
----------------------------------	---

III 定量的指標以外の 交付金対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記載)	
---	--

3. 特記事項(今後の方針等)

<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、延命化対策など港湾施設の改良等とおした港湾機能の維持・拡充を図り、地域産業のグローバルな活動を支える国際物流拠点の形成を目指すとともに、日本最大の国際定期フェリー基地としての機能維持や利便性の向上等を図る。 ・近年増大する自然災害へ対応するため、災害時における港湾機能維持の観点から延命化対策及び機能向上を図る。
